

25journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

4月28日投開票 福生市長選

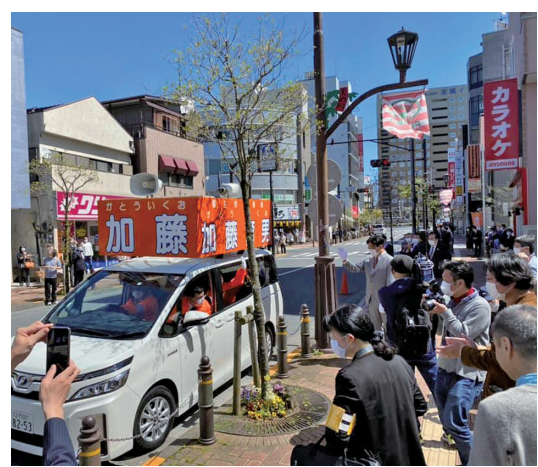
福生市の加藤育男市長は1月30日、臨時記者会見を開き、4月21日告示、同日に投票される市長選に5選を目指し出馬すると表明した。同市長選の出馬表明は同市長が初めて。

総仕上げへ5選目指す 加藤育男市長が出馬表明

福生市の加藤育男市長は1月30日、臨時記者会見を開き、4月21日告示、同日に投票される市長選に5選を目指し出馬すると表明した。同市長選の出馬表明は同市長が初めて。

会場で、4期目任期の大半がコロナ禍で市政運営が困難だったこと、物価高騰で駅前再開発が進まなかったことなどを理由に、「やり残したことがある」として5選を目指す考えを示した。

表明に至るまでには周囲と相談。3年前の現職が6選を目指した羽村市長選や昨年の檜原市長選を念頭に「多選の弊害はないと判断した」とした。ただ、「6



4年前の選挙戦はコロナ禍で行われた

の三つ巴の激しい選挙戦となった。接戦の末、当選を果たすと、その後の選挙では自公の推薦を受け、強さを発揮した。

4年前のコロナの緊急事態宣言下での選挙では、街頭演説をしたのは第一声だけ。その後は同市の新型インフルエンザ等対策本部で対応に追われた。選挙運動は林田武選対本部長、最大派の正和会、後援会などが中心となり保守支持層をしっかりとらめ、共産推薦の無所属新人候補を大差で破り、4選を果たした。

同会の活動が今後モノレール誘致にとどまらず、他の公共交通の可能性や街づくりの在り方に及べば、より有意義なものとなりそうだ。

多摩都市モノレールは1998年に上北台・立川北駅間が開業。昨年11月に25周年を迎えた。多摩地域を南北に結ぶ地域の足として定着し、1年前には累計利用者が10億人を突破した。

都は2030年代半ばまでに北側の延伸ルート(上北台・箱根ヶ崎)開業を目指す方針を明らかにする一方、南側の延伸ルート(多摩センター・町田)、西側の延伸ルート(多摩センター・八王子)を示している。

「モノレールを呼ぼうあきる野の会」がシンポ

モノレールで生活がどう変わる 議論に子どもたちの未来図がヒント?

「モノレールを呼ぼうあきる野の会」が2月18日、あきる野ルピアホール(あきる野市秋川)で「モノレールで私たちの生活はどう変わるのか」をテーマにシンポジウムを開催する。モノレールがあきる野を走るとどんな街になるのかを地域住民にイメージしてもらい、誘致の機運醸成を図るのが狙い。

授が「モノレールが走ると私たちの暮らしはどう変わるのか」をテーマに基調講演をし、子育て中の主婦、新成人、観光業と商業関係

係者、元市職員の5人がパネルディスカッションを行う。

西浦教授は、なぜ今の時代に必要なのか、どのようなメリットがあるのか、どのように実現していくのか、の3つを柱に、少子高齢化時代における高齢者のアクセス確保、若者層・子育て世代への利便性、地域経済の活性化を視点に、駅を中心としたコンパクトな市街地形成などの街づくりを絡めながら可能性を探る。また、実現には需要を予測し、ある程度の採算が採れるような戦略を練ること

こうした中、面白いのがシンポジウム開催の案内リーフレットの写真。同市立東秋留小学校の児童が50年後のあきる野の未来図を描いている。中央に「モノレールが通り、交通の便がよくなる」とあるほか、「秋川流域の空を飛ぶタクシーが開発される」「秋川駅が『のターミナル』になり、リニアの駅につながる無人バスが走る」など未来の可能性に想いを馳せている。

かつて地元には「五日市線複雑化」が話題目のようにあった。複雑化が地域発展の同義語として使われていた

明星大学建築学部で交通工学・国土計画などを教える西浦定継教授

モノレールが走る あきる野の未来

～シンポジウム開催～

未来のあきる野市
出展：東秋留小学校6年生(2023年)

日 時 令和6年2月18日(日) 午後2時(受付開始:午後1時30分)

会 場 あきる野ルピア3階 ルピアホール (あきる野市秋川1-8秋川駅北口 とうきゅう前)

内 容 ①基調講演:モノレールが走ると私たちの生活はどう変わるのか 講師 西浦定継氏(明星大学 建築学部 教授)

②パネルディスカッション:モノレールが走る街の未来を語る市民5人(子育てママ、新成人、観光業・商業関係者、元行政職経験者)

網代和夫会長ら同会関係者も認識している。入場無料。時間は14時～16時。16日まであきる野商工会内の事務局で受け付ける。

と山梨県丹波山村、小菅村をエリアとする同連盟は1987(昭和62)年から観光ガイドを育成し、同連盟がコースを定めた多摩ウオーキングトレイルを歩くハイキングや近郊の山登りなど多彩なウオーキングイベントを開催。同エリアへの観光客誘致に努めている。

高年齢などで観光ガイドが減少していることから新たに募集し、事業の活性化を目指す。観光ガイドの育成は東京都観光部からの受託事業として実施。採用者は同連盟が開く研修を受講し、同連盟主催のウオーキングイベントなどで案内を担当する。

研修(複数回開催)は3月を予定。募集人数は西多摩地域・近郊地域の在住者を対象に30人程度。研修費は無料。履歴書を同連盟まで持参または郵送で応募する。2月19日必着。

■西多摩経済新聞は市民の「街記者」を募集する。地域の魅力や地域課題、地域ブランドなどを発信する。記事はインターネットの西多摩経済新聞で配信するほか、ヤフーニュースなどにも掲載される。活動前には記事作成などの講座を開く。問い合わせは090(8460)9688岡村まで。

風光明媚な豊かな自然を案内 大多摩観光連盟が観光ガイド募集

ウオーキングイベントなどで活躍



と山梨県丹波山村、小菅村をエリアとする同連盟は1987(昭和62)年から観光ガイドを育成し、同連盟がコースを定めた多摩ウオーキングトレイルを歩くハイキングや近郊の山登りなど多彩なウオーキングイベントを開催。同エリアへの観光客誘致に努めている。